ＪＩＳ Ｑ １０１１ 分野別認証指針				社　内　規　格　例
工程名	管理項目	品質特性	管理方法及び検査方法	マスターＯ．Ａ方式
２.材料計量	２’ a)計 量 方 法 b)計 量 精 度 (動荷重) c)計量値および単位量の記録	－	２'''動荷重 a）計量方法	

マスターＯ．Ａ方式

工程	管理項目	検査頻度	検査方法	判定基準		不合格の処置
材料計量	計量方法	個別質量計量とする。ただし, 砕石 4005 の場合、2010 と 4020 を累加計量する				
	計量精度（動荷重）	１回/月	任意の連続した5ﾊﾞｯﾁについて各計量器別、材料別に行う	1) 1 回計量分量に対し次の通りとする		①不合格ﾊﾞｯﾁを廃棄する ②調整を行い、引続き連続5ﾊﾞｯﾁの再検査を行う ③調整不能の場合は, ﾌﾟﾗﾝﾄﾒｰｶに修理を依頼する
				種類	計量誤差	
				ｾﾒﾝﾄ	±１％	
				骨材	±３％	
				水	±１％	
				混和剤	±１％	
				2) 砕石 2015 と 4020 を累加計量する場合, 「最初の 2015 の 計量値」と「次に累加した 4020 との合計値」についてそれぞれ合否判定を行う		
	計量値および単位量の記録	計量印字記録装置による				

計量誤差の計算は、次の式によって行い、JIS Z 8401 によって整数に丸める。

$m_0 = (m_2 - m_1)/m_1 \times 100$

ここに、m_0： 計量誤差(%)

m_1：目標とする 1 回計量分量

m_2：量り取られた計量値

マスター M．K 方式

工程	検査項目	試験方法	頻度	時期	判定基準	不合格の処置
材料計量	０点確認	目視	全ﾊﾞｯﾁ	計量時	０点であること	０点に合わせる
	計量値の確認	目視（設定値と計量値の一致）	全ﾊﾞｯﾁ	計量時	動荷重の範囲内であること	過不足を手動調整する
	計量方法	質量計量による 但し、粗骨材（2005）の場合は 2015 と 1505 を累加計量する。 又、粗骨材（4005）の場合は 2015 と 1505 を累加計量し、4020 を個別計量する。 なお、水はあらかじめ計量してある混和剤と一緒に計量する。			1）指示された 1 回の計量分量に対し次の通りであること。 ・セメント，水 ±１％ ・骨材，混和剤 ±３％ 2) 累加計量の場合「最初の材料の計量値」と「次に累加した材料との合計値」について、それぞれ判定を行う	・不合格品は廃棄する。 ・直ちに調整する。 ・調整後、再検査を実施し合格するまで調整・検査を繰り返す。
	動荷重	任意の連続した５ﾊﾞｯﾁ以上について計量器別・材料別に指示された１計量分量を読取記録して、下式注 1）にて合否の判定を行う	1 回/月及び性能に影響する修理等完了後	月初		

注[1]「計量誤差」の確認は、次式によって行い、四捨五入によって整数に丸める。

$$m0 \quad \frac{m2 - m1}{m1}$$

m 0；計量誤差(%))

m 1；目標とする 1 回計量分量(kg)

m 2；量り取られた計量値(kg)